



営農NEWS



ダイズ圃場の帰化アサガオ類とアレチウリの防除技術

近年、ダイズ圃場で帰化アサガオ類やアレチウリが多発生しているのを見かけます。これらは熱帯アメリカや北アメリカ原産の帰化植物で、圃場に侵入してまん延すると甚大な被害が生じます。防除は、1回の処理で確実な効果をあげる方法はありませんので、いくつかの**効果がある手段を適切に組み合わせ**て防除効果を高める必要があります。

〈帰化アサガオ類の防除〉

本県ではマルバルコウ、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、マメアサガオ、ホシアサガオの5種類が確認されています。これらは4月中旬ころから10月までだらだらと発生し、**8月中に出芽したものは結実します。**

1. 土壌処理除草剤

研究機関で行われた試験の中で、アサガオ類に比較的效果が高い結果が得られた土壌処理除草剤は、成分名でプロメトリンまたはフルミオキサジンです。いずれも**40~50%の防除率**がありました。

表1 プロメトリンを有効成分に含む主な除草剤の例（平成30年6月4日現在）

| 薬剤名 | 使用量 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 散布液量 |
|----------|--------------|--------|---------------|------|-------------|
| コダールS水和剤 | 225~300g/10a | 全面土壌散布 | は種後出芽前（雑草発生前） | 1回 | 70~100ℓ/10a |

表2 フルミオキサジンを有効成分に含む主な除草剤の例（平成30年6月4日現在）

| 薬剤名 | 使用量 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 散布液量 |
|---------|-----------|--------|---------------|------|----------|
| フルミオWDG | 5~10g/10a | 全面土壌散布 | は種後出芽前（雑草発生前） | 1回 | 100ℓ/10a |

2. 茎葉処理除草剤（全面茎葉処理）

土壌処理除草剤で防除できなかったアサガオ類は、大豆が本葉2葉期に成分名ベンダゾンを含む除草剤の大豆バサグラン全面茎葉処理を行います。研究機関の試験では、マルバルコウが3葉以下であれば90%以上の防除率となりました。他のアサガオ類では効果が劣りますが、**アサガオ類が3葉以下で防除することが大変重要です。** 畦間処理は専用器具が必要です。

表3 ベンダゾンを有効成分に含む除草剤の例（平成30年6月4日現在）

| 薬剤名 | 使用量 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 散布液量 |
|-------------------|---------------|---------------|--------------------------------------|------|----------|
| 大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩） | 100~150ml/10a | 雑草茎葉散布または全面散布 | ダイズの2葉期~開花前（雑草の生育初期~6葉期）（但し収穫45日前まで） | 1回 | 100ℓ/10a |
| | 300~500ml/10a | 畦間雑草茎葉散布 | ダイズの生育期（雑草の生育初期~6葉期）（但し収穫45日前まで） | | |

3. 中耕培土（畝間が60cmの場合）

大豆の本葉4~7葉期に中耕培土を行うと防除効果が高まります。アサガオ類が「つる化」していないタイミングで、ダイズ株間に生えたものにも、しっかり土がかぶるようにします。

4. 茎葉処理剤（畦間・株間処理）

以上の対策でも十分防除できない場合は、茎葉除草剤による株間・畦間処理を行います。**株間処理はダイズ本葉5葉期に、アサガオ類が「つる化」していないタイミングで、全体にかかるようにしっかり散布します。** 散布には専用器具が必要です。

表4 株間・畦間処理ができる除草剤の例（処理法のうち畦間・株間処理のみを示す）（平成30年6月4日現在）

| 薬剤名 | 使用量 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 散布液量 |
|-------|---------------|--------|-----------------------------|------|--------------|
| バスタ液剤 | 300~500ml/10a | 雑草茎葉散布 | 収穫28日前まで（株間処理：本葉5葉期以降雑草生育期） | 3回以内 | 100~150ℓ/10a |
| | | 雑草茎葉散布 | 収穫28日前まで（畦間処理：雑草生育期） | | |

〈アレチウリの防除〉

1. アレチウリの防除技術

よく生育した株の茎長は10m以上となり、わずかの株で圃場一面をおおってしまうこともあります。4月から出芽が見られ、10月までだらだらと発生します。開花は8月下旬に始まり、9月以降に出芽したものは開花・結実します。防除対策はアサガオに準じますが、土壌処理剤（フルミオWDG）や茎葉処理剤（大豆バサグラン液剤）の効果はアサガオ類より低く、初期の抜き取りが重要です。なお、**アレチウリに直接塗布する除草剤（タッチダウンIQ 2倍液：雑草生育期 但し収穫7日前まで 2回以内）**（平成30年6月4日現在）を専用の塗布器で処理すると効果的に防除できます。

〈その他の注意点〉

アサガオ類やアレチウリは圃場の中や周囲だけでなく、道路や水路脇、河川敷などに大きな群落を作っていたりします。まん延を防ぐためには、**地域全体としての防除が重要です。**

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



JA全農いばらき

生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040